

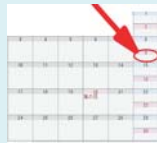
日常臨床における適切で安全な最小限の治療とは何か？

適切な診断とコンポジットレジン修復

21世紀に入り、大きく変化を続ける歯科を取り巻く環境の中でいまこそ原点に立ち戻り、真に求められている歯科医療について、東京都で開業の西川義昌先生にご講演いただく機会を得ました。歯科医師の先生方はもちろん、多くの歯科関係者にご参加いただければ幸いです。



日程 2006年7月9日(日)
09:30~16:00



会費 歯科医師 10,000円
その他 5,000円 (消費税・昼食代込み)

定員 80名(お申込み お振込順)

内容

- ・歯科治療における3つの診断
- ・我々の考えるMIとは何か
- ・ウシヨクの除去の基準
- ・審美的コンポジットレジン充填法
- ・適切な治療のための診査、診断の基準とは何か
- ・審美、機能を考慮した支台歯形成法
- ・症例

会場 株式会社愛歯 福岡営業所 研修室

〒819-0043
福岡市西区野方1-23
電話092-892-5839
FAX092-892-5381



新社屋です

主催 有限会社アワデント 熊本市新外4丁目1-95
096-331-0567 FAX096-331-0577

振込先 肥後銀行田中町支店 普通122568
有限会社アワデント 代表取締役 粟津貴昭(振込手数料はご負担下さい)

講師 西川義昌 先生
Yoshiaki Nishikawa

1949年大阪府出身
1974年大阪歯科大学卒業
1975年原宿デンタルオフィス勤務
1995年甕島中央病院歯科勤務
2000年現診療所を開設(渋谷区)
現在 NMG顧問、東京SJCD会員
日本臨床歯科補綴研究会インストラクター



■主な著書・文献(2003以降)

- 補綴臨床「失敗しない補綴治療のための誌上Polyclinic」2003年9.11月、2004年1月
- 補綴臨床「歯冠修復のスタンダードを探る—診査・診断・治療の原則とその手法」
- 補綴臨床「変革からスタンダードへ—この治療を支えるこの器材システム」2003年11月
- 歯科技工「この歯科技工のためにはこの処置・対応と製作情報を—歯科技工が歯冠修復治療として成立する要件」2003年12月
- 歯界展望「確実な象牙質接着の理論と新しい齶蝕検知液カリエスチェック」
- 歯科技工別冊「クリニカルクラスアデンチャー」2004年12月
- 補綴臨床別冊「チェアサイドで行う顎機能診査のための基本機能解剖」2004年6月
- 「歯科臨床のエキスパートを目指して vol.1 コンベンショナルレストレーション」
1. 診査・診断と診断用ワックスアップ
- 「歯科臨床のエキスパートを目指して vol.2 ボンディッド・レストレーション」2006年4月
7. コンポジットレジンレストレーション

講師挨拶

歯を削らないことは良いことである、もしくは歯への外科的介入を最小限にすることが歯科治療にとって理想である、ということはいまもありません。口腔内に加害することなく長年にわたって健康が維持できればそれこそは理想的な「歯科治療」であると思います。

しかし、不幸にも齶蝕になって、もしくは再治療を必要とする歯に対してはどのような「最小限の介入(MI)」がもっとも適切でしょうか？齶蝕や再治療をする部位が大きくなっている場合、どのような治療を選択するのがもっとも適切でしょうか？レジン充填でよいのかインレーもしくはオンレーのような治療にするのかクラウンになるのか、その診断の基準は明らかになっているのでしょうか。診断治療計画のステージでどういった修復を選択するのかをしっかりと決定しなければいけません。

また現実の歯科臨床でもっとも頻度の高いコンポジットレジン充填において、しっかりと緊密に充填し、なおかつ審美的に治療することは技術的にそんなに簡単ではありません。

今回は安全で適切な歯科治療を目指して、そのために必要な基本的概念についてお話させていただきます。

直接法のコンポジットレジン充填に関してはわずかな本数のコンポジットレジンで審美的な充填が出来るような方法についてお話させていただきます。

また特別にランチタイムを利用して審美的なコンポジットレジン充填のライブデモを世界的な技師である小野寺保夫さんにやっていただく予定にしています。 西川義昌

お申し込みFAX欄

FAX 096-331-0577(アワデント)

氏名	DR	その他	資料送付先住所	〒
	DR	その他	連絡先 電話・FAX	
勤務先	ご紹介者			